

令和5年度 事業計画

基本方針

観光業界に大きな影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症について、この春、感染症法の位置づけを「2類相当」から「5類」へ引き下げる政府方針が示され、今後大きな転換期を迎えることとなります。今まで自粛を余儀なくされた観光やイベントもようやく以前の状況に戻りつつあり、観光再開への期待感も高まってきております。また、去年は東北中央自動車道の延伸により、県内と首都圏、近隣県の利便性が向上し、多くのお客様の来町が期待されます。

昨年まで制約があったイベントについては、観光協会はもとより、げんきな高島イベント実行委員会を中心に開催し、お客様に喜んでいただけるよう積極的に取り組んでいきます。

また、インバウンド旅行者の誘致については、インバウンドの機運が徐々に高まっており、特に台湾をターゲットにした新たな取り組みを関係団体と協力しながら進めてまいります。

そして、今年度は新たに「物産部門」を取り込み、町特産品と観光戦略の紐づけによる物産販売力の向上と観光情報発信を模索していきます。新たな「たかはたファン」づくりの拡大をめざし、観光と物産の連携を図りながら、観光交流活動を展開してまいります。

町の観光施設においては、昨年30周年を迎えた「高島町太陽館」と「道の駅たかはた」の指定管理施設に併せ、「ゆうきの里・さんさん」の管理委託を町から受け運営しておりますが、引き続き維持管理修繕に努めるとともに、更なる職員の研鑽・コミュニケーションの充実を図りながら、利用者に満足していただける施設づくりに努めてまいります。

今年度はアフターコロナの大きな変化の年と捉え、「まほろばの里たかはた」の自然や文化等、地域資源の磨き上げにより、町民の皆様、地域のあらゆる産業、団体、置賜三市五町と広く連携し、効果的に情報発信を行いながら観光交流活動を展開していきます。

1. 令和5年度重点事業

(1) 『住んでよし、訪れてよし』の町づくりの推進

地域資源を活かした、高島ならではの魅力づくりを目指し、町民の誇りと来訪者の親しみが融合した町づくりを促します。

また、美しいふるさと高島町づくりを一層進めるため、「たかはた風景街道」と題した事業を新たに立ち上げ、町内各地域における観光地整備事業を実施するとともに、来訪者に感動を与え、多くの方々が拡散したくなるビューポイントの整備と情報提供、「町民のおもてなしの心」の醸成ならびに観光客受入態勢のレベルアップを目指します。

(2) 東北中央自動車道を活かした受入態勢の推進

東北中央自動車道（南陽高島IC—山形上山IC）が開通し交通アクセスが向上したことにより、大都市圏からの観光客が訪問しやすい環境になってまいりました。今後、より身近で親しみがあふれる魅力ある観光地となるために、現在進められている高島スマートIC（仮称）整備とあわせた観光資源の醸成と広報宣伝をします。

(3) サイクルツーリズムの推進

JRと連携したまほろばの緑道を起点とした「駅からサイクリング」の通年事業化や、広域サイクリングイベントの新規立ち上げなど、町内外の自転車愛好家の需要に対応した事業の展開を図り、「サイクリングの町たかはた」を確立すべく、サイクルツーリズムを推進します。

(4) JRホテル・ Folkloro 高島と連携した誘客活動の推進

JRホテル・ Folkloro 高島と連携し、県外客への情報発信を進めるとともに高島町への誘客を図りながら、滞在客への町内観光スポット巡りモデルコースの提供などを行い滞在型観光の誘客を目指します。

(5) まほろば冬咲きぼたんまつりを契機とした花見イベント事業の推進

まほろば冬咲きぼたんまつりの牡丹、たかはた雪まつりの啓翁桜など、冬のお花見イベントが注目され、SNSによる画像投稿が反響を呼び年々増加してきているため、さらに誘客につながり魅力ある事業になるよう実行委員会とも連携し事業を進めていきます。

また、まほろば冬咲きぼたんまつりで使用した牡丹を植栽した牡丹園が充実し、誘客に活用できる施設となってきたため、春のぼたん園を活用した誘客活動を進めます。

(6) グリーンツーリズム、観光農業（体験農業等）、教育旅行受入態勢の確立

高島町教育旅行受入協議会を設立し、県教育旅行誘致委員会と連携しながら、農業体験や食に関する知識、人や家族、地域とのふれあい体験を町の強みとしながら、千葉県八千代市立大和田中学校をはじめとする体験学習旅行や小中高生教育旅行の誘致活動を展開し、町全体での教育旅行受入態勢の確立を目指します。

(7) 犬猫安らぎの郷構想プロジェクトの推進

近年のペットブームによりペットと人間が共生できる町づくりが求められる中、全国的にも珍しい「犬の宮」「猫の宮」、直木賞受賞作品「高安犬物語」そして絶滅した高安犬発祥の地などの資源を活用し観光発展、地域活性化を実現させるため推進してきた「犬猫安らぎの郷構想」については、持続可能な事業内容を模索しながら事業を進め実現化を目指します。

(8) 特色ある着地型旅行企画の開発および海外プロモーション事業の推進

特色ある着地型体験観光メニューの開発に併せ、外国人旅行者に対する誘客宣伝を活発にし、国内個人旅行はもとより、団体旅行、そして交流人口の増加による地域の産業経済の活性化に努めます。

(9) 町特産品と観光戦略の紐づけによる、魅力ある物産販売力の向上と観光情報発信の強化

新たに「物産部門」を統括する委員会を組織内部に立ち上げ、売店事業強化や、各種物産販売イベントを通じた「たかはたファン」づくり、たかはたブランドを活用した交流人口の拡大など、時代に即した観光と物産の連携を模索します。

2. 継続的な取り組み

(1) 高島らしい魅力ある受け入れ態勢の整備

- ①新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式に対応した観光の提案
 - ・たかはた風景街道スマホスタンプラリー事業や、たかはた風景街道フォト事業の推進
- ②全町民「観光ガイド」運動の啓蒙推進
- ③広介童話の心を柱とした受入態勢の整備
- ④『まほろばの里』らしい食文化発展事業の推進と、たかはたブランド推進への協力
- ⑤文化財資源の保護と伝統行事の伝承と育成
- ⑥観光地の環境整備運動と観光案内看板等の整備促進、「まほろばの里」らしい自然の保全

(2) 誘客宣伝活動

①総合観光インフォメーション機能づくりとインターネットを活用した情報発信事業

公式ホームページに併せ、Facebook、Twitter、InstagramなどのSNSを積極的に活用し、高島町の旬な情報の発信を推進します。

また、ニーズの多い観光情報（トイレ、駐車場、観光地、飲食、買物、イベント、無料Wi-Fi）を提供できる総合観光インフォメーション機能を構築し、観光客の利便性を図ります。

②多様化する観光ニーズに対応する観光モデルコースの発信

気軽なサイクリングを提案する「まほろばサイクリング旅」、美味しいものを食べ歩く「パワースポット&グルメぐり」、ぶどう狩りやそば打ち、紅花染め等を体験する「夏の体験ざんまい」、旧高島駅や瓜割石庭公園を巡る「たかはたレトロめぐり」など、高島町でしか体験できない観光素材を組み合わせ、多様化する観光ニーズに対応する観光モデルコースを発信します。

③高島らしいビュースポットの提案と新たなビュースポットの開拓

Instagramを活用した「たかはた風景街道フォト」事業を通し、旧高島駅や瓜割石庭公園など高島ならではの風景を四季折々に発信するとともに、フォトイベント参加者の新たな視点によるビュースポットを開拓し、さらなる観光誘客に生かします。

④仙台市、首都圏、そして高島町と友好交流都市である横浜市栄区での観光誘客宣伝と物産販売のタイアップキャンペーンを関係団体と連携し実施します。

⑤国の有形登録文化財に指定された旧高島駅舎をはじめとする文化遺産の利活用や整備促進の検討並びにまほろばの緑道・まほろば古の里歴史公園等の名所旧跡における観光の活性化に向けた事業を行います。

⑥旅行エージェント訪問、各種誘客イベントへの参加による誘客活動の実施

首都圏、仙台、新潟エリアからの誘客を促進するため、街なか歩きや体験観光等の企画に併せ、高島オリジナルの旅行商品を造成し誘客に努めます。

⑦観光コンベンション事業の強化

従来の観光客だけではなく、会議やセミナー・講座等の来訪者を受け入れるコンベンション事業を、農業や商工業等の他産業と連携しながら総合的に強化推進します。

⑧フィルムコミッション事業の強化

フィルムコミッション事業を実践しロケ地誘致活動を推し進めるとともに、すでに映像化された町内ロケ地情報を発信し、ロケ地巡り等の誘客につなげます。

(3) 広域観光

①国道113号線観光推進協議会と連携した、みちのくおとぎ街道事業、伊達家ゆかりの地関連地域との広域観光事業を推進します。

②やまがた花回廊キャンペーン、冬のあつた回廊事業実施における各種誘客活動を実践します。

③伊達家・織田家ゆかりの町としての戦国観光を推進し、伊達政宗にちなんだ事業を通しながら高島町内への誘客拡大、歴史文化の交流拡大を推進するとともに、地域特性を活かした広域提携商品づくりをします。

(4) 各種団体との連携

- ①(公社)山形県観光物産協会・やまがた観光キャンペーン推進協議会・国道113号観光推進協議会・県南観光推進協議会・山形おきたま観光協議会等関係団体等との連携
- ②高島町総合観光推進協議会事業との連携
- ③高島町物産協議会引き受け母体としての模索
- ④浜田広介記念館・まほろば古の里歴史公園施設等、町内文化関係施設との連携強化
- ⑤「まほろばの里案内人」(観光ガイド)の充実と案内活動の実践
- ⑥JR各種事業への連携と協力

(5) 組織の強化と会員拡大

- ①事業拡大に伴う協会組織拡充の検討
- ②「感謝のつどい」の実施や観光協会だよりの充実
- ③新会員拡大運動の展開

(6) 委員会活動

観光事業の総合的・普遍的運営とその責任方式を確立し、当協会の事業目的達成と円滑な推進を期すため委員会を設置し、協会事業の活性化を図ります。

総務委員会

- ①会員拡大事業
 - 〇 観光協会事業の啓発を継続実施し、理解のもと協力をいただける会員の拡大を図ります。
- ②感謝のつどいの開催
 - 〇 会員各位への感謝と協会組織強化のため感謝のつどいを開催します。
- ③観光協会だよりの発行
 - 〇 事業の周知や情報発信のため観光協会だよりを発行します。
- ④理事研修の実施
 - 〇 観光協会組織強化のため理事研修を実施します。

観光振興委員会

- ①経済効果を図るために宿泊を伴う体験型、滞在型観光事業の模索
- ②観光資源を活かした観光振興地域活性化事業
 - 〇 高島町と協力し、SNS等を活用しながら観光資源の情報発信を行います。
 - 〇 たかはた風景街道事業を実施します。
 - 〇 高島町のライトアップ事業と協力体制を築きます。
- ③史遺跡、地域の地元組織と連携を図った美化活動。
- ④町内観光資源の付加価値を模索し永続的な誘客につながる仕組み作り
 - 〇 既存の観光資源を活かしたアクティビティの模索・PRを行います。
- ⑤その他
 - 〇 まほろば冬咲きぼたんまつりにおける企画等を行います。
 - 〇 観光振興事業への、観光協会会員の参画を仰ぐ仕組み作りを行います。

施設管理委員会

①高島町太陽館について

- 〇 施設の老朽化に伴う危険個所を確認し、修繕の必要箇所等随時施設の整備申請を続けます。
- 〇 太陽館売店の販売促進を図ります。
- 〇 休憩室の利用活性化を検討します。
- 〇 高島町のコミュニティ施設としての魅力あるイベントを行います。

②道の駅たかはたについて

- 〇 施設の老朽化に伴う危険個所を確認し、修繕の必要箇所等随時施設の整備申請を続けます。
- 〇 環境を活かした道の駅づくりを目指します。
- 〇 羽山⇄安久津の遊歩道について町との連携を図ります。

③ゆうきの里さんさんについて

- 〇 農村地域環境を活かした施設づくりを目指します。
- 〇 施設の老朽化に伴う危険個所を確認し、修繕の必要箇所等随時施設の整備申請を続けます。
- 〇 地域と連携した農業・農産物加工体験の充実を図ります。
- 〇 観光と連動した宿泊プランの創出を行います。

物産推進委員会(案)

①売店事業の強化

高島町太陽館売店を高島町物産販売の拠点施設と位置づけし、高島町内で長く愛されてきた物産はもとより、高島の新しい特産品、地元の新鮮な野菜や果物などを販売し、駅利用者だけでなく町民にも愛される売店を目指します。

②町外を中心とした物産販売イベントへの参加および着地型旅行ツアー造成

J R仙台駅「たかはたフェア」や横浜市栄区民まつりなど大都市物産イベントへの参加をとおし、高島町特産品のファン拡大を目指す。

また、友好都市でもある横浜市栄区との交流による着地型旅行を開催することにより、食のたかはたファン拡大を目指す。

③ECサイト活用によるたかはたの「食」を提供したたかはたファン獲得

高島町商工観光課で進めているECサイト運用事業と連携し、従来の物産展による物産品の販売に併せ、インターネットによる物産品の販売やインバウンド観光客への物産販売を行い、たかはたの「食」を提供したたかはたファンの獲得を目指す。

(7) 観光イベント事業

- | | |
|---------------------------|--------------|
| ①第36回全国ペット供養祭 | 7月22日(土) |
| ②第23回まほろば冬咲きぼたんまつり | 2月9日～12日(予定) |
| ③共催、協賛事業 | |
| ・駅長おすすめの小さな旅 | 5月13日(土) |
| ・第57回たかはた夏まつり(青竹ちょうちんまつり) | 8月15日～16日 |
| ・まほろばの里たかはた「J R仙台駅物産展」 | 10月中旬(予定) |
| ・グル麺ライド | 9月下旬(予定) |
| ・第40回たかはた冬まつり | 1月～2月 |

3. 指定管理並びに管理受託施設事業計画

(1) 高畠町太陽館

①温泉部門

- 〇 随時施設の確認・管理を続けます。特に、老朽化による危険箇所・修繕箇所には注意を払いお客様がより利用しやすい施設とします。
- 〇 高畠町のコミュニティ施設として休憩室利用を含めた、魅力あるイベントを実施するとともに、地域、関係団体との連携による活気ある「駅」づくりを目指します。
 - ・風呂の日の実施（毎月26日）
 - ・入浴ポイントカード事業の継続
 - ・年間イベントの実施、チラシ作成等によるイベントのPR

5月上旬	太陽館市
8月上旬	夏の夜まつり（ピアガーデン）・ほろ酔いちょうちんまつり（予定）
10月 8日	秋のふるさとまつり“太陽館まつり”（予定）
1月 1日～ 3日	お正月イベント
2月 9日～12日	まほろば冬咲きぼたんまつり（予定）

②売店部門

- 〇 高畠町のお土産品の情報発信施設としての充実を図ります。
- 〇 駅乗降客のニーズに応えられる商品構成の充実を図ります。
- 〇 夏冬ギフト「美味玉手箱」の充実に伴せ、通年販売できるギフト販売を企画し実施します。
- 〇 活気ある売店づくりのため、農産物納入品等による月1回のお得市を行います。

③食堂部門

- 〇 食堂経営者（株式会社りんご苑・ホテルfolkローロ高畠・（一社）高畠町観光協会）が一体となった経営努力をします。

④付帯施設利用者の拡大事業

- 〇 イベントステージの屋根設置に伴うコンサートやイベントを開催します。
- 〇 テニスコートやゲートボール場の利用者拡大対策と老朽施設の再点検を行います。
- 〇 ぼたん園の管理を進めながら、春ぼたんの開花に合わせた誘客活動を強化します。

(2) 道の駅たかはた

（高畠町総合観光案内施設・高畠ふるさと自然のみちウォーキングセンター）

①道の駅たかはた部門

- 〇 道の駅を管轄する国、県の行政機関、全国・東北・県の道の駅連絡会、駅長会等と連携を図り道の駅の活性化に努めます。
 - ・道の駅に関係する各団体との運営委員会を実施し、高畠町を中心とした広域観光、周遊観光の推進をすすめるとともに、誘客、広域告知に努めます。
 - ・四季を通じ状況に即した営業時間の設定
- 〇 売店・食堂部門の売上の増加を図ります。
 - ・よねおりかんこうセンターとの連携強化
 - ・山形県道の駅駅長会事業の専用商品の追加補充（第3弾）推進

- ・道の駅関連団体の農産市に積極的に参加し、町内産物の販売・PRを実施していきます。
- ・農産物直売会「まほろば大地の会」との協力態勢の強化
- ・地産地消を推進し飲食メニューの拡充

〇まほろば大地の会と連携した年間イベントを実施します。

6月中旬	生産者による農産物即売会
8月	おかえりなさいふるさとフェア
9月連休時	高島町グリーン・ツーリズムネットワーク共同農産市・ブドウ市
10月	秋の収穫祭
2月	ぼたんまつりへの協賛事業

〇町内で誘客活動している各団体へ働きかけ新たな集客施策を検討して参ります。

②高島町総合観光案内施設部門

〇窓口での対面観光案内の充実を図ると共にインターネット等による情報発信を行います。

〇町内店舗への顧客の流入を促進します。

〇高島町の総合観光案内施設として魅力あるイベントを実施します。

4月～2月	館内展示会、他団体との連携による体験教室の実施
5月	おもちゃ祭り
8月	カブトムシ相撲大会
1月1日～1月3日	お正月「初飴ふるまい」

〇年間を通し、町民の多岐にわたる優れた作品の展示会を開催します。

〇季節や伝統文化に合わせた館内装飾を施し来館者の再訪問を促します。

③高島町ふるさと自然のみちウォーキングセンター部門

〇町内各種団体との連携により町民ウォーキングの普及を図ります。

〇周囲景観を生かした独自のウォーキングコースの利用を促進します。

〇町外のウォーキング愛好者へ向けてコース案内を推進し利用促進と有効活用を図ります。

(3) ゆうきの里さんさん

(和田民俗資料館、高島町交流促進施設及び高島町農産物加工体験交流施設)

平成27年度より管理運営業務を受託した「ゆうきの里さんさん」関連施設を滞在型観光の拠点に位置づけ、グリーンツーリズムや滞在型観光の確立に向けて各種事業を展開します。

①高島町交流促進施設

〇ログハウス風コテージ3棟（標準型2棟、バリアフリー型1棟）を有効に活用し、高島町滞在観光の拠点施設となるよう、町外・県外に向けたPR活動を行います。また、施設の維持管理修繕に努め、建物・サービス共に利用者の満足度の高い施設にしていきます。

②高島町和田民俗資料館

〇伝統家屋を改修した研修・集会施設「楽集館」をグリーンツーリズムならびに観光農業（体験農業等）の拠点として活用していくと共に、催事・団らんの場合としての活用についてもPRしていきます。

③高畠町農産物加工体験交流施設

- 〇 地場農産物を活用し、そば打ち、味噌づくりなど地域特産の農産物加工体験を行い、高畠町のグリーンツーリズムをPR・推進して行きます。

④施設周知、利用者増加のためのイベントの実施

- 〇 10月21日 ゆうきの里さんさんまつりを実施します。

(4) 町公式マスコットキャラクターPR活動業務

本町の魅力をPRするためのシンボルとして制作された高畠町公式マスコットキャラクター「たかつき」「はたつき」を活用し、イベント等を通し町の観光、物産の振興に努めます。